

■マンモグラフィ検査(乳房撮影検査) Mammography imaging

検査前に

上半身の服は全て脱ぎ、検査着に着替えていただきます。

ネックレスやイヤリング等は外してください。

髪が写真に写り込むことを防ぐため、髪は束ねるか検査用キャップを被っていただくことがあります。

制汗剤等はがんのサインである石灰化に似て写ることがありますので拭き取ってください。

検査装置



AMULET Innovality

検査方法

通常撮影

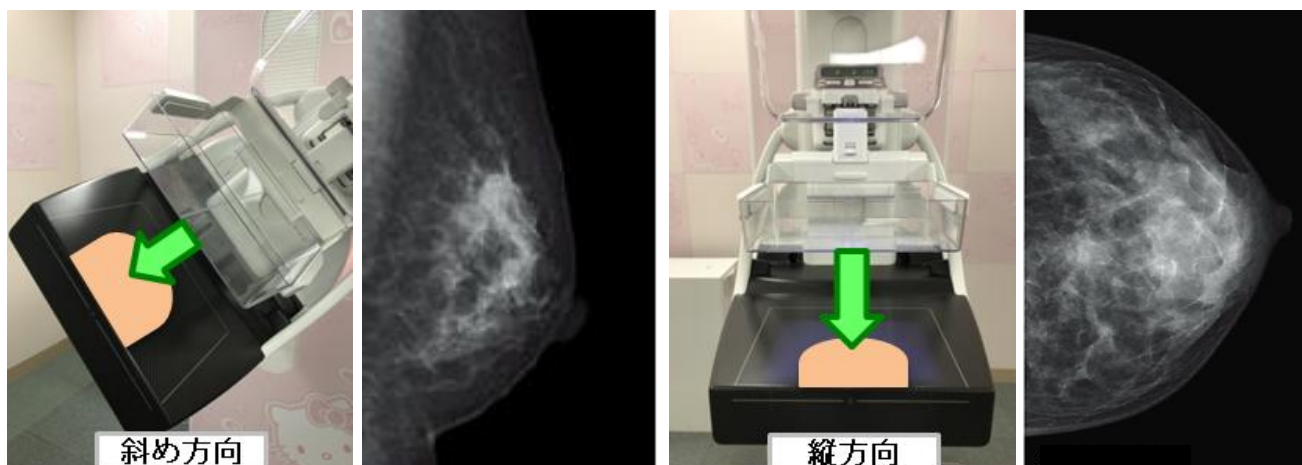
マンモグラフィでは乳房を圧迫板で挟み、左右それぞれ斜め方向(MLO)と縦方向(CC)から撮影をおこないます。

必要に応じて他の角度からの撮影や拡大スポット撮影、トモシンセシス撮影(3D)を追加します。

乳房を圧迫し薄くすることにより乳腺を均一に広げ病変をより鮮明に写し出すことができます。また乳房厚が薄いほど少ない被ばく線量での撮影が可能です。

圧迫には多少の痛みを伴いますが、力を抜きリラックスした状態の方が痛みは軽減されます。

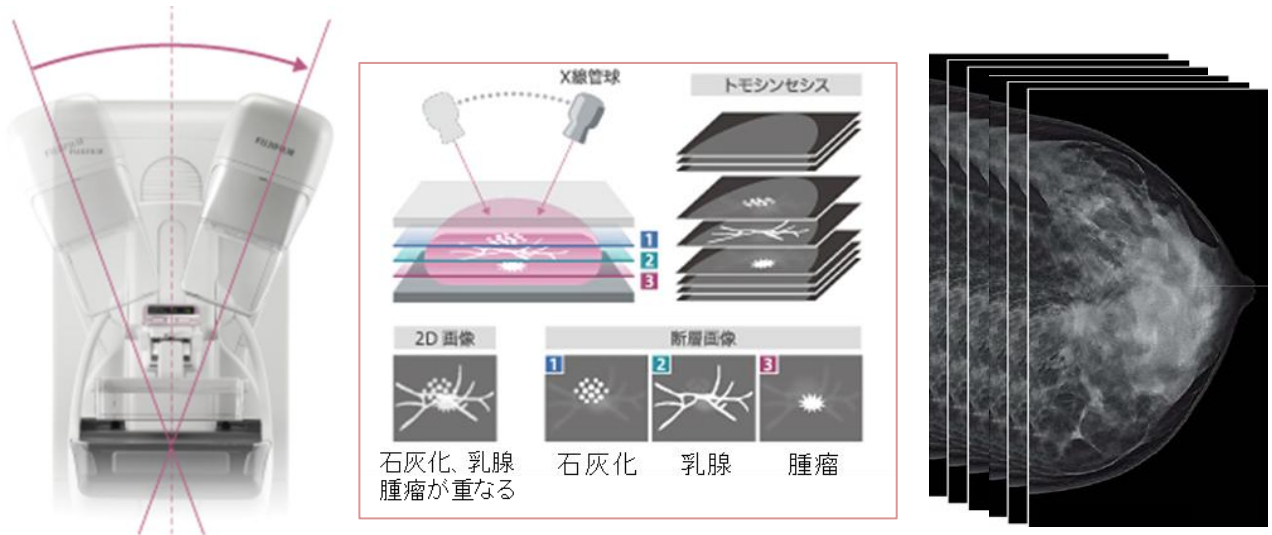
我慢できないほど痛みを感じた際は、撮影技師にお申し付けください。



トモシンセシス撮影(3D撮影) D:Dimension(次元)

トモシンセシス撮影とは、角度を変えて複数の方向から撮影することで断層像を得る撮影です。1mmごとの薄いスライスで画像を見ることが出来るため、乳腺と病変部の重なりが少なくなり診断能の向上が期待できます。

トモシンセシスと斜めや縦方向の撮影は続けて撮影することもできます。撮影時間は少し長くなりますが(10秒前後)、1方向あたり1回の圧迫で撮影可能です。



一般的な撮影方法(2D)では乳腺と病変が重なって写ります。

トモシンセシス(3D)は断層画像のため乳腺と病変の重なりが減り認識しやすくなります。

注意事項

以下の項目に該当する方は、検査前に担当医師または技師にご相談ください。

- ・ペースメーカー
- ・豊胸術後
- ・妊娠中または可能性がある
- ・VP シャント、ポートなど

その他、ご不明な点がございましたらお気軽にお問い合わせください。

実績

令和7年度

撮影件数(人)
1295人